

思いを描く



それぞれが好きな色を筆で取り、描いていく。色を分ける子がいれば色を混ぜる子もいて、色の変化に気づき紙いっぱいに広げる子もいました。



不安そうに描き始めたけど徐々に思い通りに筆を動かして楽しんでいました。パレットの上で色を混ぜたり紙の上で色を重ねたり一つの絵でもたくさんの方法で表現していました。

段ボールで作ったイーゼルで描いてみる。始めは線が細くなったり遠慮しがちな様子が見られていました。



実物を見ながらさつまいもに触れた時のことや思いを紙へ。気付けば紙だけじゃなく、さつまいもへ（笑）立体物へ色を付ける楽しみも感じたようでした。



机で描くのとは違いを感じながらも楽しくなり色々な線を描く。自然とできた四角を塗っていく。



色を塗るというより線を重ねていき描いていました。色の違いも細かくありとても楽しんでいました。実際のさつまいもを見て楽しかった思いがどんどんと広がり最後には紙からはみ出してしまいう程に。とても満足していたのは説明しなくても感じますね。



黙々と画用紙に向かい何やら話しながら描いていました。耳を傾けると道を描きその上にまた道ができていくようです。彼の中で物語が進み絵も変化していく。最後には同じような色が広がっていますがしっかりと完結し満足した表情で描き終わっていました。



子どもたちは描きたいものが決まっている時もあれば決まっていない時もあります。また、形になっているものもあれば形になっていないものもあります。描きながら描きたいものが変化することもあると思います。大人が見た時に褒めやすいものはわかりやすいものですが、どんな絵にも描いた子の物語がそこにはあると思っています。途中で止めて形で残したところを私たちはぐっとこらえて満足するまで楽しんでもらいたいと思っています。今までの持ち帰っていた絵にも子どもたちの楽しい気持ちがたくさん表現されています。どの絵も楽しんで描いたものなので良い悪いを感じてしまわないように描くことを好きになってもらえるようにこれからも続けていきたいと思っています。